

(ポイント)一方で商品の価値を高め、他方で商品の価値を低くするという一見矛盾した関係のなかで、資本家はどんな条件のもとで機械を導入するのか。

○ p348-349 協業や分業から生じる生産力(=社会的労働の自然力)や、蒸気や水などの自然力、科学は、資本家にとっては何らの費用を要しない。

①しかし、これらを利用するには非常に費用のかかる複雑な装置が必要である。

②機械装置は価値を創造しはしないが、生産物にそれ自身の価値を移転する。

機械は、それ自身の価値に応じて生産物を高価にする。

○ p350-351 機械は労働過程にはつねに全体として入るが、価値増殖過程にはつねに一部分ずつしか入らない。

①価値形成的要素としての機械と生産物形成的要素としての機械とのあいだには、大きな差異がある。

②使用と消耗との差異は、道具よりも機械の方が大きい。※「大きい節約」

③機械と道具は、日々の平均費用(摩損・材料費など)を引き去るならば、自然力と全く同じく無償で働く。 ※機械装置と道具の規模の差

④大工業において初めて、人間は過去の対象化された労働生産物を、大規模に自然力と同じく無償で働かせることを知る。

○ p351-352 生産物に移される価値部分が生産物を高価にする程度は、生産物の大きさに依存する。→ 一生産物(織物・鉄)には微少・僅少な価値部分しか移されない。

※一馬力…物体を 1m 移動させた仕事率のことを馬力といいます。馬力は、一般的には国際単位系である W (ワット) で表され、1 馬力は約 735.5W となります。

(注 109a) 公称馬力と指示・商業的馬力

(Wiki) 蒸気機関を実用化したイギリスのジェームズ・ワットは、蒸気機関の性能を表示するために動力を実測し、動力の単位として馬力を制定した。当時蒸気機関が進出した所で動力源として多く馬が使われていたため。

※綿業における一連の技術的変革は 1760 年代後半、紡績工程へのジェニー紡績機・水力紡績機の導入をもって開始。後にスロツスル紡績機へと改良され、1779 年にミュール紡績機が発明。

○ p353-354 ①作業機が生産物量は作業機の働く速度に依存する。

②機械が価値を生産物に移転する価値部分の割合は、機械自身の価値量に依存する。

※付加する価値が少ないほど機械は生産的あり、自然力の奉仕に近い。

③だが機械による機械の生産は、その大きさと効果に比して、その価値を減少させる。

○ p354 手工業やマニファクチュアの商品の価格と機械生産物の商品の価格とを比較すると、機械生産物の労働手段に負う価値構成部分は相対的には増大するが、絶対的には減少する。 ※1ポンドあたり撚糸の総価値に比して

○ p356 機械の生産性は、機械が人間の労働力に代わる程度によって図られる。

※ 366 ポンドの綿花－ミュール紡績機では 150 労働時間。紡ぎ車では 27000 労働時間。

他の例－機械捺染(プリント)、繰綿機(綿繊維を種子から速く簡単に分離する機械)

○ p358 {1 台の機械 = 3000 ポンド = 150 人の労働者の年賃金} だとしても、この機械が「いかなる割合で…資本家のための剰余価値を形成するかにかかわらず表現する。」

※蒸気犁…産業革命を経てトラクターが発明されるまでの 19 世紀前半には、ヨーロッパやアメリカでは蒸気機関に犁をひかせて耕起することもあったが、今日では蒸気犁による機械耕はトラクター耕に取って代わられた。

○ p359 生産物の低廉化の手段…機械装置の使用に対する限界は、機械装置自体の生産に要する労働が機械装置の使用によって代わられる労働よりも少ないこと

・資本が支払うのは、充用された労働ではなく、充用された労働力の価値であるから、資本にとっての機械の使用は、機械の価値と機械によって代わられる労働力の価値との差によって限界が与えられる。

○ p360 労働力の価値以下への労働賃金の低落が機械装置の使用を阻止する

※児童労働(半時間工)は機械装置によって代わられた

※しかし北米人は碎石機を発明したが、イギリス人は貧窮者を使用している。

河舟を曳く婦人(馬の代わりに使用される)

(注 116a) 共産主義社会においては、機械装置はブルジョア社会におけるとは全く違った活動範囲をもつであろう。